傾城水滸傳

馬琴著

第十編

國安画

上帙

へ13
3019
9

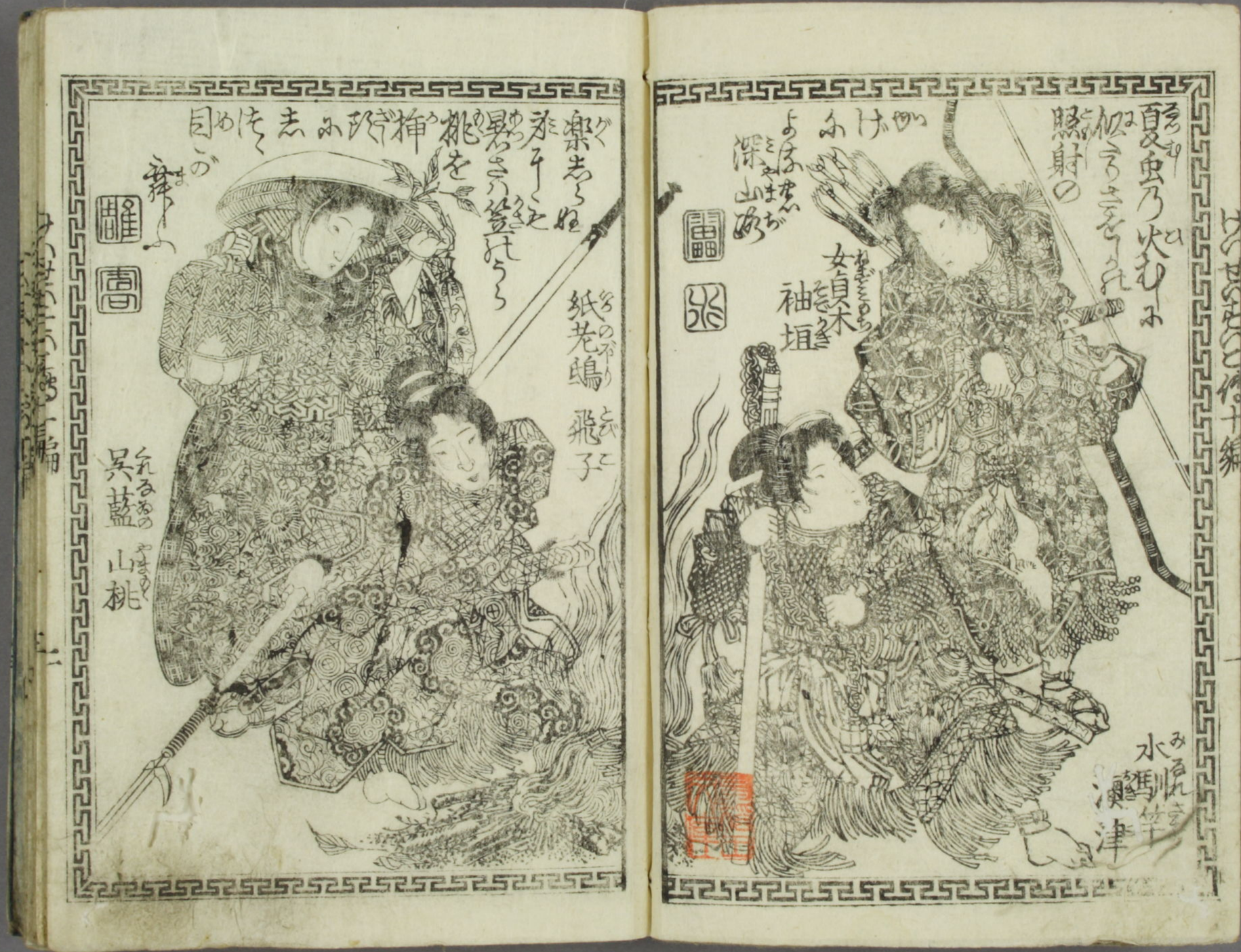
江戸通油町書肆
鶴屋喜右衛門版

13
3019
9

微軀此書を新作して嘗彼の故事を敷衍し宣和遺事の録して
江ホ三十六將晁蓋あり林冲あり然るに水滸傳の作者ひとり
作出せる人物晁蓋にて天罡地煞の員内に在りめ[illegible]
子頭とりてこゝろ蓋彼晁蓋を梁山泊の巨魁とすれども宋朝の殺に遇ひ
まく曾市頭に陣歿こゝろ便是かの戦首をその終を取れるの宜く
一百零八の列星中に在りむべくこゝに脚色かくの如くなりて宋江その以前轍を
踏むと云へ天罡第一星とする嫌ひあり今這傾城水滸傳なる蝴蝶ハ
則晁蓋なれども彼を一百零八の男婦中に在りめて最後に一枝花蔡
慶に擬する一人を省略こゝろ何をもて任ずるぞとこゝに凡一百八勇婦ハ三
世姫に仕るの比皆是義に仗て忠を倡て水滸の百八賊とあるこゝに身ぶ
所云初善中悪後忠の差別あり始よりして宋江ホと異なるよのあれば

又金瑞が外書を看るに李逵と柴進が綽號を評して旋風云云と
義を云へこゝろ第十回なるその言理あるに似れども身ぶのようにこゝろの
辨論ヨヌれども寸楮に盡もべくもあらねばそを後々の編なるの文水滸傳
第四十九回なる宋江ニて祝家荘を打とのの條を看るに扈三嬢の生拘ら
れたるを看屬の李逵がなるに殺されて然るに三嬢ハそなる梁山泊に留りて
宋公明に媒妁せられ遂に王英と夫婦になりこゝ倘ひの如くこゝにその男の
ちのあるとなるも抑不孝の女子なるべし[illegible]朱ホ宋江ホが謀て霹靂火
秦明の妻子を死地に就りめて明に花栄の妹をもて妻せしとの趣向に同じ
なる魔彩に取ぐりけるこゝの換骨奪胎をもて聊勸懲に合せ[illegible]
諄々くもとも看官先刻より業知るべし

文政十三年庚寅春正月吉日　新版　曲亭馬琴識

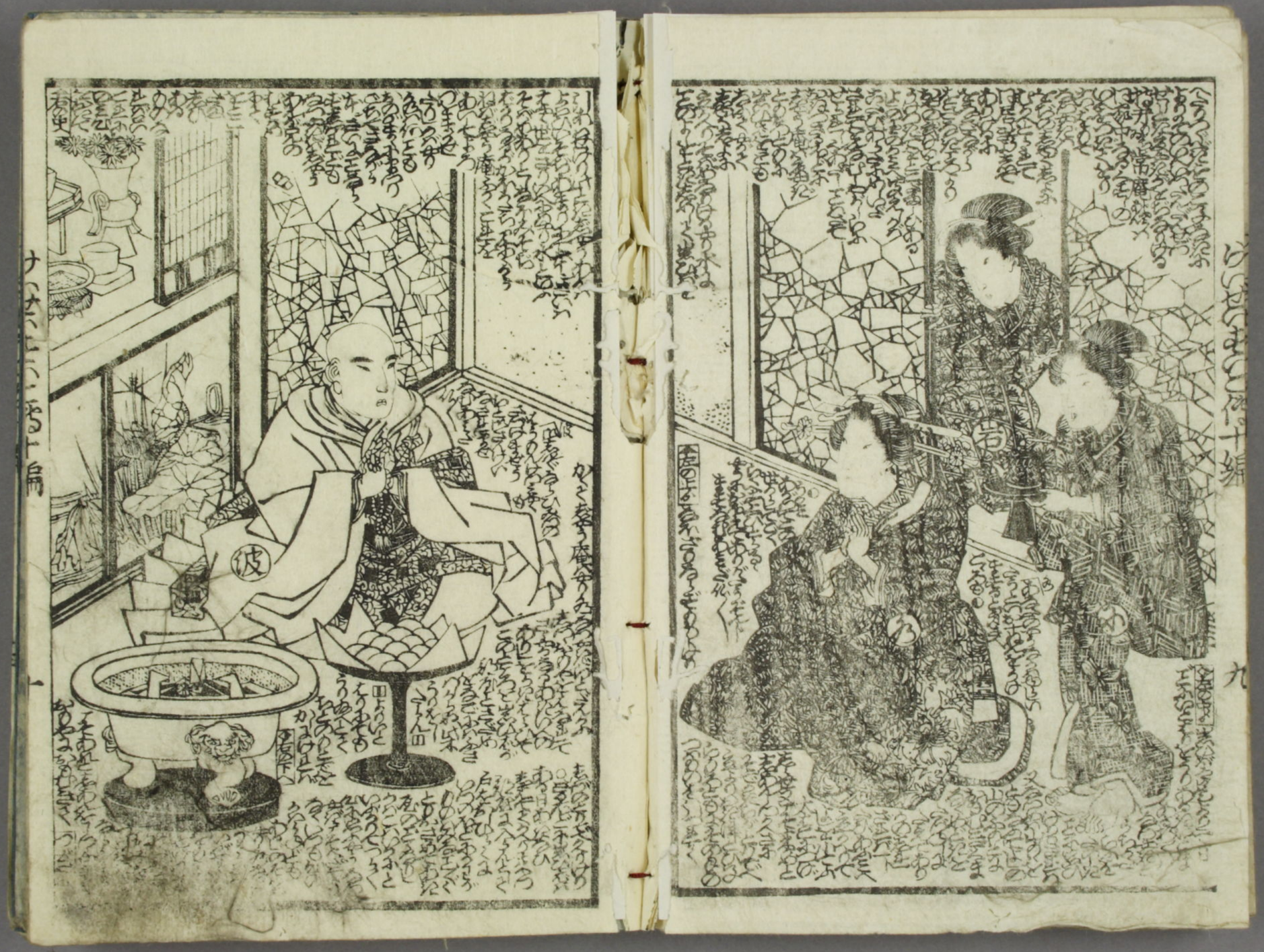

夏虫乃火むし
照射の
女貞木
袖垣
水鶏竿
湊津
楽志らぬ
紙花鳥
飛子
桃を
挿
去
吳藍
山桃

病葉 夏楊
祝儿風の
紅もみぢ
さそえん
たきぎ
うち
落葉
ひと掃を
桐孫秋乃
庭もせ
早潮
鰹手
長

玉の緒
島孔雀
なごの海
ちろ
ちろ
ちろ
たまちろく
風ぶ
命不知
岩楊

蒼海原胡沙丸
胡沙
月の眉
責れよ富む
蜜女面渡橋
上不見鷲巌居

袖
神
袖
神
桃



年代記児童講譯 初編より二編迄 當年上梓 山東庵京山作

此稗史ハ神代のむかしより年代記にあらはるゝ事の外にもれたる事を拾ひあつめてこれを絵にあらはしこれをよめバむかしの世々のさまをよくあきらめて童子のたよりともなるべき草ざうし也

年中行事御祝儀日童講譯 初編より六編迄 全部十二冊 山東庵京山作

此稗史ハ正月の松かざりを始として十二ヶ月の祝儀日の故事来歴をくはしく記し年中の祝ひなる事を絵にあらはしたる早学問の草ざうしなり

拳獨稽古 袋入 中本 全一冊 山櫻連々合作 逸軒揺舟

戯場顯微鏡 上帙二冊 下帙二冊 彩色入

黙老漁隱著
歌川國貞畫

戯場考古博覽の諸子著述する彩毫の妙筆ありとかつは皆故実
識鑑のミとまるて看官の規則をまもるべきまいこれまたこの戯作
ろくろくとも芝居のつけぶくろ作者のうけぶくろ作者
あのそ功者とそのこまつめ上三段まぢのの超世の考古の発明紀出

本朝繍像艶容女仙外史 初編 五冊

黙々漁隱飜案

この書ハ唐山の逸田叟が筆とかつて著せし妙案奇怪千変少年短才愚酒を取て日本
なるるれ来れ本朝の飜案あ作者して一箇の家風
のるる作らへ唐賽児を弁の内始まる三尺利尊氏為王の飜して
つぎ公そる曲亭翁の輩よ故ふの之り看官の誌君子よろしく高
ちひく次編ちんぎうむくんとをこひねがふのみ

顯微鏡 後編 萬邦劇場談 上下二冊

黙老漁隱著

これハ初編のつゞきてる極光故ふるえ
すぐく戯場ていくりくする狂言のあるれ

瀧澤篁民著

迎福南鍼録

一名 相宅手引草

全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳一奇

大本 全五冊 繪入

平假名附 近刻

右二書共遠く閑板仕ル 江戸通油町書林 仙鶴堂小林喜右衛門印行

来選擇相宅の書年二月行れて五車ハ
繁十牛と汗もう至り総ともその夫林初の為ハ懸と
絲方位方位相神と逆の要領を若しくハ吉に就
ど避禍を禳福を祈りの書ハ物紀辨方書本
あ学ぶ疎くして故妻不辨の人らるの常ハ坐右ハ階ハ元る吉
凶悔吝の感ふるるの人凡一家の主人らるの常ハ坐右ハ階ハ元る吉
見ろる天凡一家の主人らるの常ハ坐右ハ階ハ元る吉
凶悔吝の感ふるるの人凡一家の主人らるの常ハ坐右ハ階ハ元る吉
この書ハ雅とうく俗とうくその一技ハ一高ある古人
列傳と韻録とも勸懲の一端と成られ忠孝
義烈尚氣節操の世ハ捷れらるの悟逸名用
技藝好事のうるぐまそ得るふ随ふ漏とこ
見併善ハ見てらくの進んとこ欲ハ不ハ
数言人を数言人をその巻中の巻中の出家あ
繪とこ覚ハ覚ハて巻ハ単る異用魂奇ハ抜書ハ

曲亭馬琴著

傾城水滸傳第十編

歌川國安画

上帙巻之下

曲亭馬琴著　毎編八巻合本四冊上下各一帙

舊傳順州張回潘巧雲

傾城水滸傳第十編之三

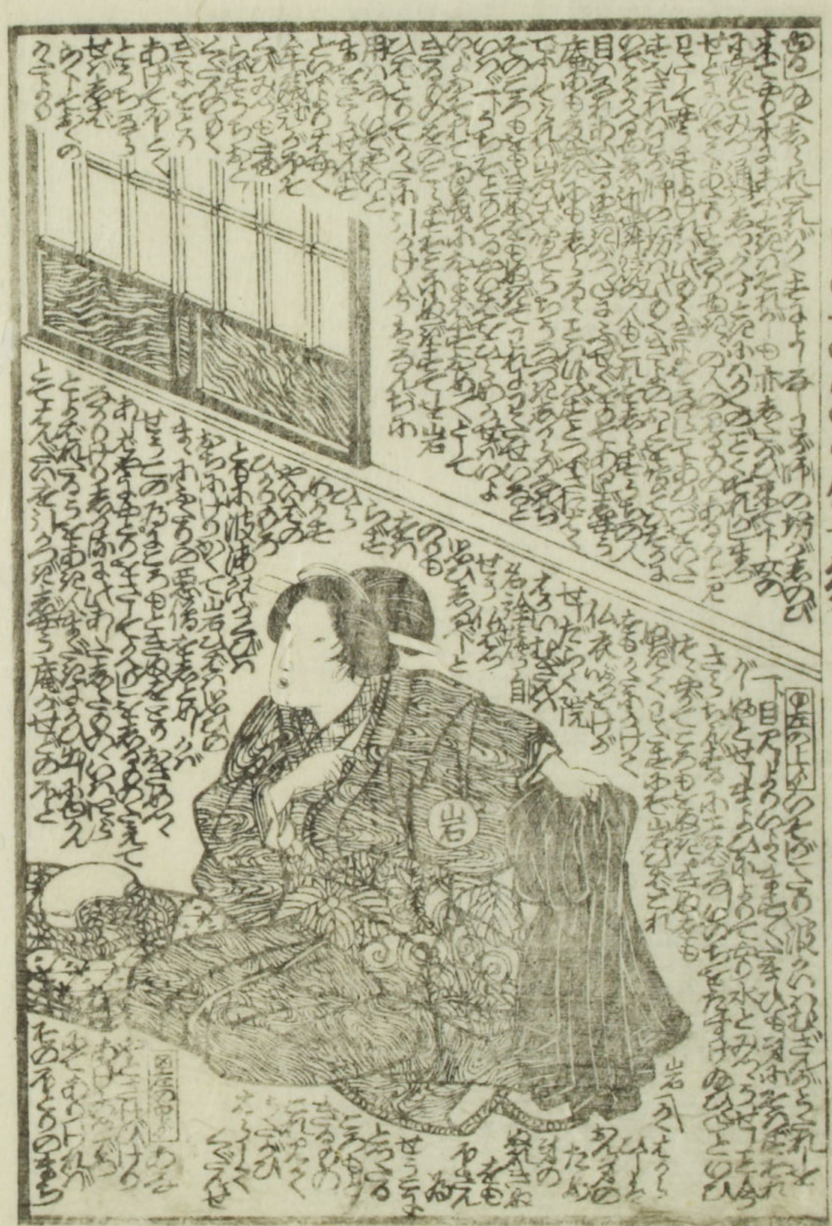
肩薪嚷邪魔辞寓鋤奸
命不知岩楯智勇進退

草拳擬乃二五雑集
邪麗水

改過索義姆捨禄雪怨
病軟葉夏楊奮震刀法

歌川國安画　江戸通油町書林鶴屋喜右衛門梓

年
岩
波


岩

場

楊
早

岩
小

文政十三庚寅春　鶴屋喜右衛門板

御免江戸番開板所

載陽帖　全一冊　南山禪師書　四季和文章

新撰　田本名所之繪唐紙帖一枚　蕙齋鍬形絵真筆

新撰　文古状　抽園生竹　大紙　両品出来　高井蘭山編撰

遠堀紙料　柳亭種彦隨筆　古画入二冊

甲斐菴輯　芋の[illegible]　芭蕉翁[illegible]

裝筐翁隨筆　玄同放言　初編二編三編　合計三冊

書物錦繪暦問屋仙鶴堂　鶴屋喜右衛門板

忠臣水滸傳　繪入十冊　讀本

稗史水滸傳　初編六編迄共三山東京山譯　十二冊賣出シ申ス　歌川國芳画

水滸傳劇場雛形　初編鶴屋南北作　四冊　歌川國貞画

稗史水滸傳　七編ノ十二編迄賣新板　柳亭種彦譯　共三十二冊ヲ毎年十月ニ賣出ス　歌川國芳画

水滸傳豪傑雙六　歌川國芳画

繪本三國志　初編八冊出来　重田貞一譯　歌川國安画

繪本漢楚軍談　初編ノ五編迄　重田貞一譯　共三十二冊出来　歌川國安画

東京　春英堂　販書目録　通油町　仙鶴堂

[illegible]集　全冊　[illegible]

蘭集　全冊　[illegible]

歡童遊記　畫手本　一名鳥獸繪早見草

懷中早割大全　全冊

新形染彩自　[illegible]

芝居似顔早見　[illegible]　全二冊　五渡亭國貞画

傾城水滸傳 第十編

馬琴著

國安画

曲亭馬琴著

傾城水滸傳第十編

歌川國安画

下帙卷之上

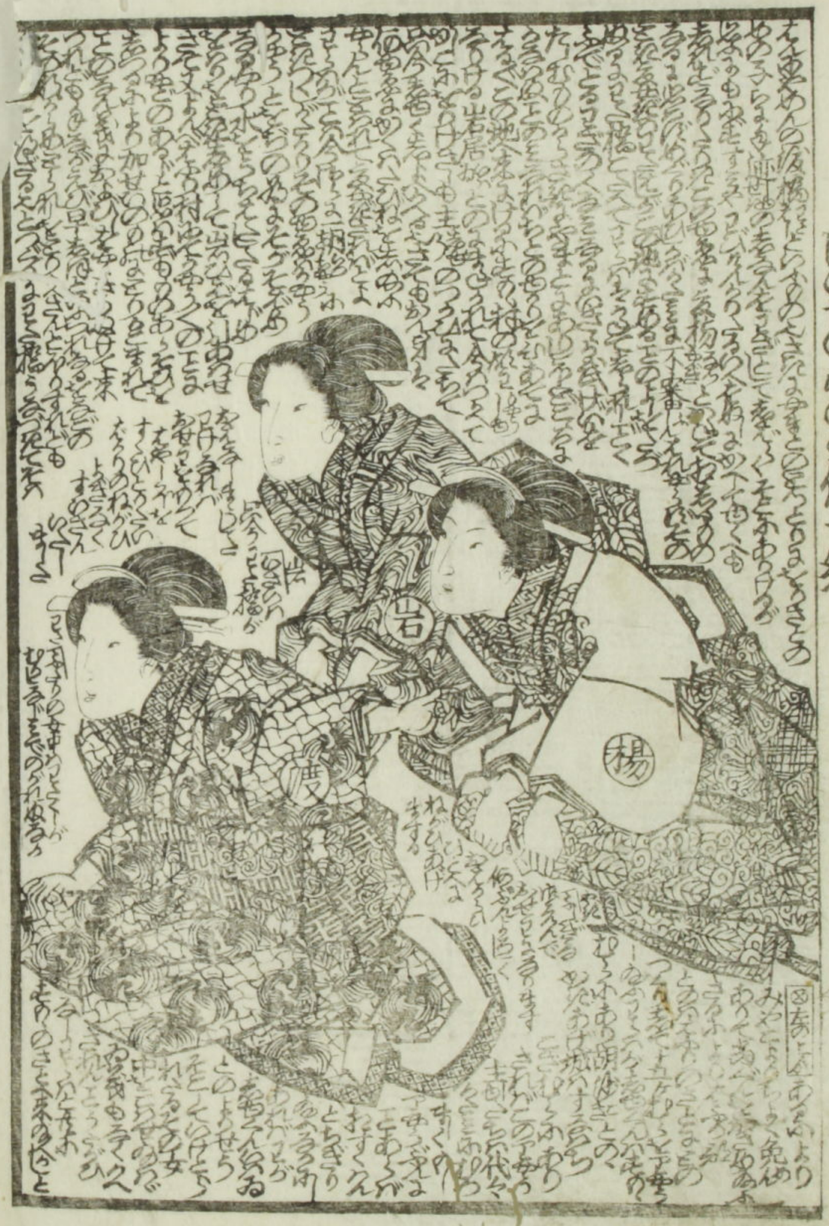
江戸通油町書肆
鶴屋喜右衛門版

傾城水滸傳第十編之叁下帙

繡像歌川国安画
開板鶴屋喜右衛門

傾城水滸第十編去歳の俗事に氣ぶ前翁て両刀筆の使れわが上帙四号で山と点。阿堵の必早春ゆと口ろ〻出放題目のそ腥物のやるさの塩引魚と共侶ふ片身ろ。老そ年を喩ちのぶ田へ引く樋定規も一寸伸れば尋延る春蘭るまぐ離れる机そ。ろふ執直ー下帙わ通合ー五八四ろ〻ん壹部崩ちく式朱ま朱ま五ろ〻ろ。勘定と合ま る五百品維貫中ふ〻ぐなりけ是ぞ繰まりさまりぬせ〻ん菴でいるけ是ど金聖たんと稿本と仙鶴堂の願言と今一茲いのと卯の魁春は一色の梅ま〻ら〻木に揚潰ー〻る初編ろ〻三編まぐを再板又ゆろ〻るゆと板元の笑顔わ〻ら〻込む十一編のう〻約束ろ〻伴當さ〻迭代わ〻ふ神猶もたのこの編數わ十二十三十四年惟文改のあたり作と世の評判わ乗ぐ来て禿る筆を走らま る馬ぎやくい作者の名詮自笑わ知らぬ四十年老せあ戯墨ま餘慶の仕克返ぐ来も畑密ぐ〻ろ〻ぬ〻ま〻ろ〻ぬを詰て書のこ。

曲亭馬琴識


山石
楊

居

熊

岩

楊
岩
度
居

楊
山石
夏

蝶
箱
呂

桃
岩

桜
柏
力

山石

話

熊

桃
岩

年代記児童講譚

初編全三編近刻

当年上梓

山東庵京山作

此稗史ハ神代のむかしより年代記ふるきものの外ふるれたるを補ひ出しろきふるふるのものを絵ふあらハしこれをよめばむかし世々のものをよくあきらめて童子のもれ考るたよりとも成なるべき歟

年中行事御祝儀日童講譚

全部十二冊

山東庵京山作

此稗史ハ正月の松うざりを始とし一ざうに餅を祝ふの七ざ物の事けづりうけのものをまぐさ十二ヶ月の故実日の故実来歴をハ〻くわしくあらはしるを絵まわらし年中の祝ひものの日けをまる早学問の名ざうしなり

拳獨秘書古

中本 袋入 全一冊

山櫻連々 逸軒 揺舟 合作

古の書ハ拳をあのむ業いまゞ初学の官人ども共「ゝび拔見あふとハ体まぎ拳の出方ホ自筆とひとり和おゝ物ものまちまゞ風をとゝ」つゞる書れハ朔々傍ふ弄ものゝ上達して奥義ふゝゞ名本ゝ

辛卯孟春新彫發行數部目録

戯場顯微鏡

上帙二冊　下帙二冊　彩色入

黙老漁隠著　歌川國貞畫

これまで戯場考古博覧の諸子著述する所の劇の書あまたありといへども皆故實鑑識のことを書記して看官の規則をあらはさず此書はこれまでの躰に異にしてふりがなをつけよみやすく役者のうけ并に芝居見物の好者ところもちまつ上三巻を著ずるの數品が考古の談をあつめ…

本朝繍像艶容女仙外史

初編　五冊

黙々漁隠　飜案

この書ハ唐山の逸田叟が筆をふるって著せし妙案にて奇談怪説にとむ所のものなりこれまで本朝に飜案の作なしよってこれを小説にうつし唐賽兒を弁の内侍にかえ足利尊氏を燕王に擬して一箇の演戯となせしは曲亭翁の類章に效ふのみ看官の諸君子よろしく高評をあたへ…次編もいまだ…

顯微鏡後編　萬邦劇場談

上下　二冊

黙老漁隠著

これハ初編にのせてある珍説故事より元の唐山天竺魯西亞阿蘭陀の事まで戯場にかゝはる狂言のおもむきをくはしく考へ…

瀧澤篁民著

迎福南鍼録

一名　相宅手引草

全部五冊　近刻

近來選擇相宅の書古年より月に行れて五車に盈つといへども其術多端にしてこれを辨じがたし此書ハ協紀辨方書并に相宅相神の要領を著しその吉に就き凶を避け禍を攘ひ福を迎ふることを宗として…日用有益の良籍なり

右同著

雅俗百傳奇

大本全五冊　繪入

平假名附　近刻

此の書ハ雅とも俗ともその行状に奇ある古今の列傳を輯録して勸懲の一端となせり忠孝義烈尚氣節操の世に捉れたるより隱逸名聞技藝好事のたぐひまで得るに随て漏さず…異聞瑰奇の珍書なり

右書共遠からず開板仕候　江戸通油町書林　仙鶴堂　小林喜右衛門　印行

曲亭馬琴著

傾城水滸傳第十編

歌川國安画

下帙卷之下

曲亭馬琴著　本編合本四冊内中下套二冊
文政十四年辛卯春正月梓行

颯颯斥候松　千遍臍を噬む　李野籠城
不向上就鷲嵩厳居

傾城水滸傳第十編之四

青葱生門桁　三田仇を討つ　祝莊敗軍
楡莢雨大葉子が

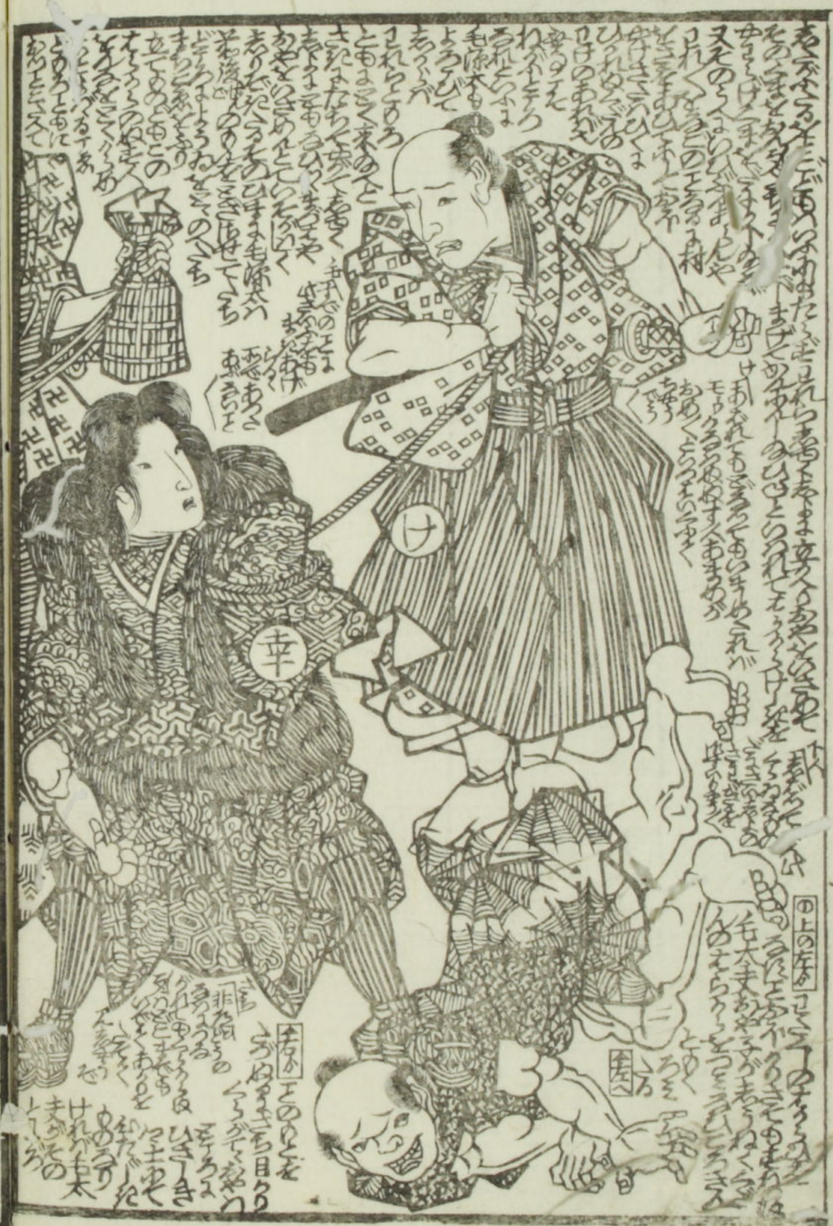
歌川國安画

江戸本町筋通油町書林
仙鶴堂　鶴屋喜右衛門

作者白三九郎

胡
桜

筒
五
二
七
豆
箱
桜


け
幸

毛
狩

[illegible]

家傳神女湯 [illegible] 一包代百銅

精製奇應丸 大包代弐朱 中包代一匁五分 小包代五分 [illegible]

熊胆黒丸子 [illegible] 一包代五分

婦人つぎ虫の妙薬 一包六十四銅 半包三十二銅

[illegible]

神田明神下 同朋町東かど 滝澤氏

弘所 元飯田町中坂下南側 [illegible] たき沢氏

[illegible]（右の下へ）

（左の上へ）[illegible]

馬琴作

國安画

浄書 谷金川

文政十四辛卯春 鶴屋喜右衛門板

御免江戸暦開板所 毎年十月下旬 [illegible]

載陽帖 南山禅師書 四季和文章石摺

東海道 木曽海道 道法早算用道中記 一枚摺

新撰 日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙斎鍬形紹真筆 [illegible]

新撰 女古状揃園生竹 大本 半紙本 両品出来 髙井蘭山編撰 [illegible]

還魂紙料 柳亭種彦随筆 古画入二冊 [illegible]

田喜菴輯 芭のひともと 幻住菴記引證 [illegible]

簑笠翁随筆 玄同放言 初編二編 六冊 [illegible] 第三編 三冊 近刻

右 [illegible]

三畝莊宋木技輯 **芳峰集** 全一冊 板 閑

同軒 **蕙蘭集** 全一冊 追

歡童戲筆 **遊言画手本** 一名 **鳥羽繪早まなび出来**

廣益塵劫記 **懷中早割大全** 小本一冊

新形染彩目 楮花手引糸 前編出来 前北齋爲筆 後編嗣刻 先生絲ふ

芝居役者 **似顔早誓古** 後編 全一冊 五渡亭國貞画

八文字自笑評 三箇津藝品定 **役者評判記** 全三冊 相撲ひ文字

即考百籤 全一冊

傾城水滸傳 初編十編上帙迫春出 二編十編下帙今十二編 近卯彩板寅九月之春出

合物端歌弾初 全一冊 柳亭種彦校訂 **笠亭仙果作** 歌川國安画

いろは分江戸名所 初編四冊 十字詩 三九作 東海道五十三次 花の都路 諸大人狂歌入 錦絵本 全一冊 歌川國安画

隅田川両岸覽 北齋筆 内 全三冊

矢猛心兵交 五柳亭徳升作 全十冊 歌川国安画

江戸名所東鑑 蕙齋筆 内 全三冊

春狂言善悪鏡 全六冊 恋川春町作 歌川豊国画

江戸名所物見丘 清長筆 内 全三冊

右四通共極上品にて大あり 進物抜あり 近日発兌

彦紫田舎源氏 初編分再板出来 四編の六編 近卯彩板寅九月之春出

柳亭種彦作 歌川國貞画

美動 女香罕河 仙安香 京橋大番の美人 坂本氏製

黒汲美玄香罕河 坂本氏製

書物錦繪 江戸通油町

團扇地紙問屋鶴屋喜右衛門